



〔海の状況 (6/21~7/20)〕

神子表面水温……期間の終わりにやや低め(平年より0.5~1.0℃程度低め)となる期間がみられたほかは、平年並み(平年より±0.5℃程度)からはなはだ高め(平年より2℃程度高め)で推移した(図1)。

米ノ表面水温……天候の影響を受けかなり低め(平年より1.0~1.5℃程度低め)およびかなり高め(平年より1.0~1.5℃程度高め)となる日がみられたほかは、平年並みで推移した(図2)。

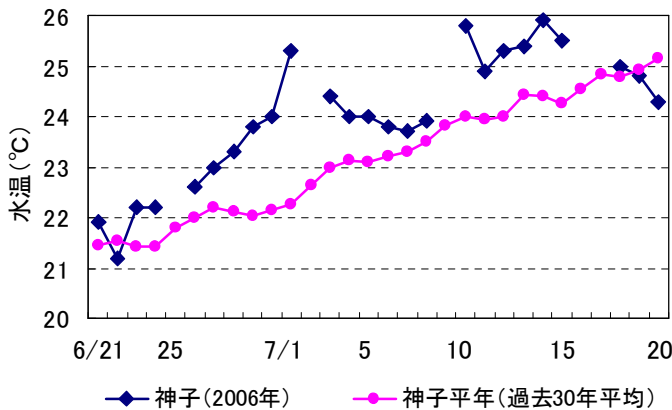


図1 若狭町神子地先における表面水温の推移

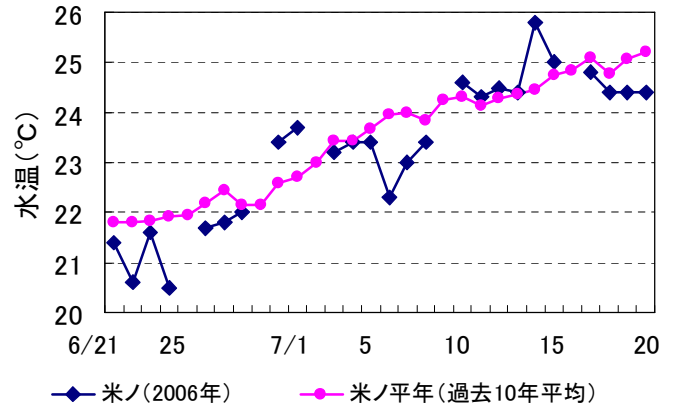


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

100m深水温……若狭湾沖に山陰若狭沖冷水域の張り出しがみられ、若狭湾沿岸域には15℃台の水域が広がっていた。

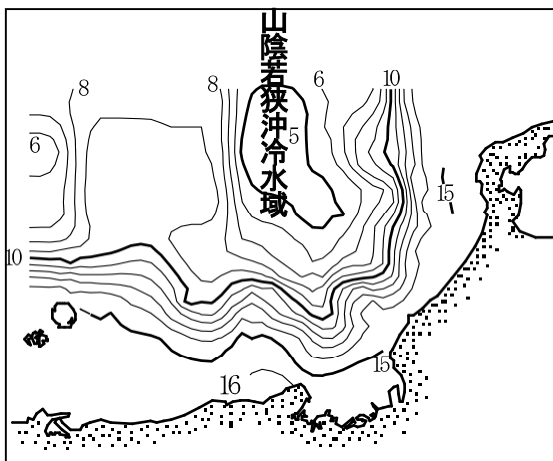


図3 2006年7月上旬の100m深水温

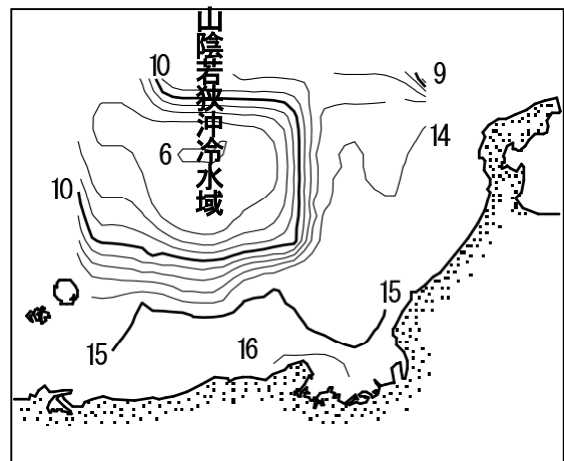


図4 2005年7月上旬の100m深水温

平成 18 年度第 2 回日本海海況予報

日本海区水産研究所が、平成18年7月から9月までの日本海海況予報を発表しましたので、関係部分を紹介し

- 山陰若狭沖冷水域は、3月から6月にかけて規模は大きく接岸しており、今後も張り出しはやや強く推移するでしょう。
- 対馬暖流域の表面水温は、平年並みからやや低めで経過してきており、今後も平年並みで推移するでしょう。
- 対馬暖流域の50m深水温は、平年並みで経過してきており、今後も平年並みで推移するでしょう。

(松宮由太佳)

〔漁の模様〕

2006年6月の県内の総水揚量は1,733tで、2005年同月を302t上回った。カタクチイワシ(2006年;11t, 2005年;28t、以下同じ)、ブリ類(64t, 81t)、サワラ(31t, 44t)、フグ類(12t, 22t)、スルメイカ(115t, 287t)等は下回ったものの、アジ類(774t, 403t)、サバ類(94t, 51t)、トビウオ(325t, 146t)、マダイ(28t, 18t)等は上回った。

漁業種類別の状況

定置網 ……カタクチイワシ、ブリ類(ワラサ・ツバス銘柄)、サワラ、フグ類等は下回ったものの、アジ類、サバ類、ブリ類(ブリ銘柄)、トビウオ、マダイ、スルメイカ等は上回り、全体で前年を507t上回った。

底びき網 ……ハタハタ等は上回ったものの、マダイ、キダイ等は下回り、全体で前年を6t下回った。(小型底曳網漁業は、6月から8月は休漁となっています。)

釣り・他 ……ブリ類(ワラサ銘柄)、マダイ、アオリイカ、ケンサキイカ等は上回ったものの、スルメイカが大きく下回ったほか、アマダイ、スズキ、ヒラメ、その他カレイ、タチウオ、メバル類等も下回り、全体で前年を199t下回った。

〔県内主要漁業の6月の漁獲量〕

(調査対象市場：三国・越廼・敦賀・早瀬・小浜の各漁連支所、福井市・越前町・若狭高浜の各漁協)

(単位:kg)

定置網			
魚種	2006年	2005年	96-05平均
カタクチイワシ	10,504	28,452	24,432
アジ類	772,249	402,392	415,726
サバ類	93,843	51,062	31,712
マグロ類	4,386	6,794	5,545
カツオ類	139	1,129	4,556
ブリ類	60,817	79,415	92,994
ヒラマサ	393	354	2,685
サワラ	31,167	44,488	18,583
トビウオ	324,482	145,571	139,618
マダイ	19,179	11,484	11,974
スズキ	6,048	6,391	3,012
ヒラメ	1,495	2,048	1,413
カマス	5,028	4,717	8,917
フグ類	11,708	20,903	19,122
タチウオ	120	1,173	467
スルメイカ	30,926	12,219	15,453
アオリイカ	1,950	499	1,209
ケンサキイカ	20,905	16,289	25,518
その他	20,321	73,740	56,768
合計	1,415,661	909,119	879,704

底びき網のつづき			
魚種	2006年	2005年	96-05平均
その他	1,765	3,829	5,328
合計	45,467	51,261	61,065

釣り、延縄、さし網、その他			
魚種	2006年	2005年	96-05平均
アジ類	1,278	586	761
サバ類	359	3	496
ブリ類	2,729	1,089	3,256
トビウオ	805	207	194
マダイ	8,006	3,962	6,053
キダイ	4,523	5,334	2,623
アマダイ	5,588	10,133	6,460
スズキ	5,795	8,380	5,729
ヒラメ	2,561	7,028	3,875
その他カレイ	3,912	5,638	5,092
カマス	497	112	72
タチウオ	63	814	517
アナゴ	5,968	4,938	7,107
メバル類	3,556	6,644	5,369
キス類	701	664	806
スルメイカ	84,180	274,879	318,801
アオリイカ	1,589	693	504
ケンサキイカ	3,301	2,017	10,732
コウイカ	731	755	903
タコ類	34,983	34,731	45,380
その他エビ	1,343	2,708	2,407
その他	99,492	99,771	95,269
合計	271,959	471,087	522,407

底びき網			
魚種	2006年	2005年	96-05平均
マダイ	672	2,072	1,959
キダイ	0	2,225	461
アカガレイ	1,352	816	3,455
その他カレイ	792	786	4,598
ハタハタ	4,205	225	1,709
ニギス	190	80	1,432
タコ類	875	828	1,369
アカエビ	32,809	37,377	34,764
その他エビ	2,807	3,024	5,990

総計	2006年	2005年	96-05平均
	1,733,087	1,431,467	1,585,573

〔近府県の漁模様〕

(6月下旬から7月中旬の漁獲状況……1日1隻または1統あたり。京都府の定置網漁獲量は舞鶴漁連への1日あたりの水揚量。)

石川県 …… 定置網 …… アジ304kg、トビウオ類131kg、ガンド32kg、サバ27kg、サワラ10kg
 京都府 …… 定置網 …… マアジ20.4t、カタクチイワシ4.2t、トビウオ1.1t、サワラ1.1t
 兵庫県 …… 定置網 …… アジ1,837kg、サバ70kg、マルアゴ55kg、シロイカ38kg
 鳥取県 …… まき網 …… マアジ8.8t、マサバ0.2t、ブリ類0.4t

(松宮 由太佳)

バフンウニ資源の状況と資源回復対策について

「越前うに」の原料であるバフンウニは、三国町の重要な磯根資源ですが、近年その漁獲量は減少しています。そして、2年前にはほとんど採れなくなりました。水産試験場では、ウニの減少原因の究明とその対策について研究しています。

これまでの研究から、バフンウニは高水温に弱だけでなく、高水温時の大きな水温変化にとても敏感で、場合によっては死に至ってしまうことが分かってきました。実際、三国町の海域について調査を行ったところ、夏から秋の高水温期にバフンウニの生息量が減少していることが確認されました。そこで、この高水温期をどう乗りきるかが重要なポイントになると考えられます。

今年は、バフンウニの越夏対策の試験を、雄島漁協の方々と一緒に取組むこととなりました。取組み内容は、今年の三国町の海に生息している、商品価値の低い小型のウニを取り上げ、水温の高い時期を安全に過ごすことのできる場所に移して飼育します。そして、秋になって水温が下がり、ウニにとって安全な環境になってから、海に戻そうというものです。

さて、今年の三国町のバフンウニの生息状況

について説明します。三国町の海には、昨年生まれた小型のウニがたくさん生息しています。資源量の目安となる、10分当りに採集される個体数は、梶地先で134個、崎地先で260個と、2000年から行っている調査の中では最高の値となっています(図1)。ただ、身入りが良くなる25mm以上のウニは、全体の20~30%くらいです。また、今年は春から初夏にかけて、餌の海藻が豊かであったことから、ウニの身入りが良く、サイズはやや小ぶりながらも**品質の良い「越前うに」**が作られるのではないかと期待されます(図2)。そして、今年の夏は残暑もなく、無事バフンウニが夏を過ごすことができ、来年大きなウニが漁獲されて生産量が増えることを期待しています。

(畑中 宏之)

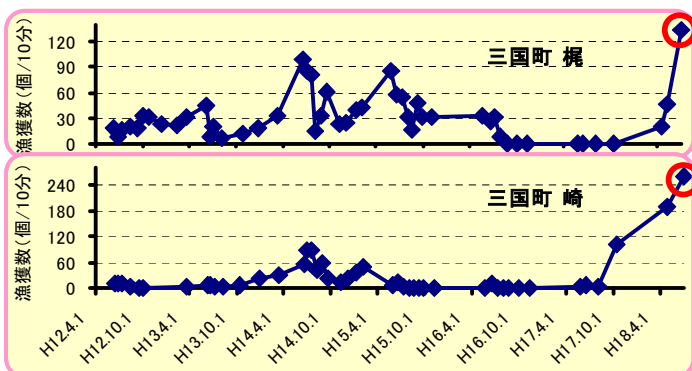
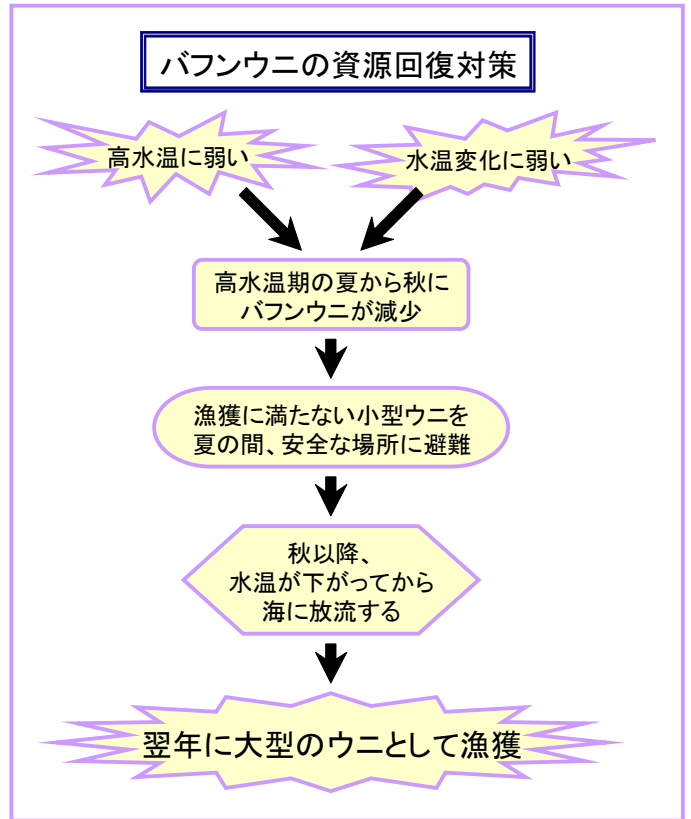


図1 10分間潜水による採集個体数

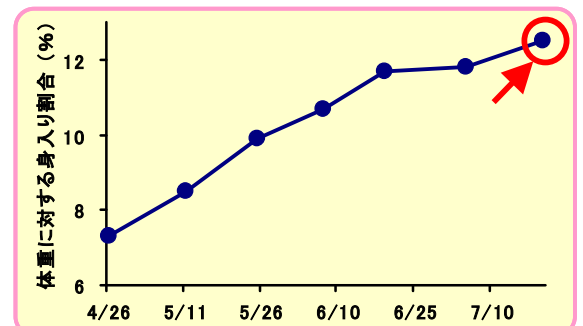


図2 三国町梶の身入り割合の変化

平成18年スルメイカ漁場一斉調査結果

日本海側の各試験研究機関によるスルメイカ漁場一斉調査が、6月下旬から7月上旬にかけて行われましたので、その結果についてお知らせします。

(1) 福井県の調査結果

福井県沖合の4定点において、釣機4台を用いて毎晩約8時間ずつ釣獲試験を行った。

- ・ 漁場水温…表面水温は19.1～20.6℃（前年同期21.5～23.3℃）、50m深水温は10.2～16.1℃（前年同期3.2～18.4℃）であった。
- ・ 漁獲状況…総漁獲尾数は1,263尾（前年1,505尾）、CPUE（釣機1台1時間あたりの漁獲尾数）は平均9.2尾（前年7.2尾）であった。
- ・ 体長組成…胴長（外套背長）は、最も沿岸に近い7月6日の調査点では18cm未満の小型個体が42%を占めていたものの、概ね20cm前後の個体が主体であった。

月 日	7月3日	7月4日	7月5日	7月6日
調 査 位 置	N 36° 40.2' E135° 59.8'	N 38° 0.2' E134° 59.8'	N 37° 40.2' E135° 39.8'	N 36° 20.2' E135° 39.8'
漁 獲 尾 数	40	284	312	627
C P U E※	1	9	9	18
平均 胴 長 (cm)	19.6	21.0	19.3	17.9
表 面 水 温 (°C)	20.6	20.3	19.1	21.0
50m 深 水 温 (°C)	11.9	11.1	10.2	16.1

※CPUE：釣機1台1時間あたりの漁獲尾数

(2) 日本海全体の状況

日本海区水産研究所の取りまとめによると、すべての調査点におけるCPUEの平均は15.80尾で、昨年（16.24尾）とほぼ同様の水準であるが、近年5年間平均（18.38尾）を下回った。分布状況を見ると、新潟県から秋田県沖では小型ながらも分布密度が高く、能登半島以西では分布密度が低く、大和堆以西の沖合域では大型で分布密度が高かった。6月までの各海域での漁況において、特に今年のスルメイカは、5月に石川

県付近に魚群が留まり、豊漁となった。今後の見通しとして、日本海西部および沖合域において、10月は近年並み、11月以降は近年を下回ると予想される。また、本州日本海北部においては近年を上回ると予想される。

この調査では、各機関により標識放流が行われました。標識の付いたスルメイカが採捕されましたら、水産試験場までご連絡ください。
(前田 英章)

